

学校
法人 内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 243 号
(12月)
2017

対話的活動と理解力の育ち

盛岡幼稚園 理事長 坂本 洋

創立百十周年を迎えた本年も師走となり新年に向けた心の準備の時節です。特に幼稚園教育においては、新指導要領の実施を控えての教育課程作成に余念がありません。ここ2年程前から私も新指導要領の移行につき研修を行ってまいりました。その概要をまとめますと、今までのように子ども達の主体的遊び、環境を通しての総合的な指導は変わりありませんが、その中でもアクティブラーニングとして子ども同士の対話的活動を中心に、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったか。そのことができることを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。これまでも子ども達の

発達に応じた個別の知識や技能の基礎を育むことを基本に指導して参りましたが、この度はその上に子ども同士の対話的活動をより活用し、粘り強くやり遂げることや他者との協調、思いやり、更には他者から認められ受け入れられるかわりを通して、自分の言動に自信を持ち自尊感情を育み、自分の感情をコントロールする自制心の育ちをより確かなものにするにと、即ち非認知能力の育ちを今まで以上に意識し、学びに向かう力や人間性の基礎を身に付けることが特徴です。その関わりとして子ども同士の対話的活動がキーワードです。

しかし、幼稚園教育における子ども同士の主体的な対話活動です

が、そう容易なものではないとの認識です。発達年齢的に理解力や知識力が乏しいうえに、且つ自己主張、自分の思いは強く表現するが、他者の声や思い、考えを聞く力が希薄な状況で、主体的な対話を中心にといつても中々大変なことです。

例えば、幼稚園での色々な保育活動では、教師が活動内容を理解させ活発に行動してくれることを期待し、活動の導入内容をお話・説明をする場面が多くあります。

「わかりましたか?」、全員が大きな声で「わかりました!」と答えるのですが、必ずや意図と違う活動の「理解」「動き」の子が散見されます。教師は全員が同じ理解をしていると思っていますが、幼児の発達段階の幅の広さを考えながらの対応が教師の重要な役割となります。

また理解力の育ちですが、発達年齢相応の聞く、覚える、知る力の育ちが先ず土台と言われます。そのうえに考える力、判断する力が加わり、自分なりの表現、意思の表出があつて、本来の理解力に合った活動、育ちが行われると考えられております。

ですから、理解力を育て強化することは、聞く・覚える・知る力の育ちが重要です。ところが、最近の子育て相談に、どうもお話聞いてない、聞かないので困ると嘆かれる事例があります。色々と理由がありますが、一般的に乳幼児期の言葉がけの希薄、聞くことより話させることを重視、また環境的にマスメディアの刺激が多く、しつかり言葉として聞き取ることの関心が低い等々の指摘があり、言葉を聞くことの繰り返しや習慣が必要であることに気づきます。覚える、知るについても、①見聞きしたことを心にとどめる(記憶する力)、②学んだり経験したりして身に付ける(習得する力)、③体や心に感じること(感性の力)等がしつかり身につくように普段の生活で関わるのが、覚える、知ることへの営みになります。

新指導要領の対話活動の重視は、今まで力を入れてきた理解力の育ちの強化と同時並行的に行うことが大切であると確認しているところです。ご家庭の皆様方もこのことを注視して日常的な子育てにお役立ていただきます。

百十周年記念式典・祝賀会を終えて

温故知新

園長 坂本 信行

今年度の最大のイベントであった百十周年記念式典・祝賀会を終えた。

百十周年を迎えるために、昨年八月の理事会で話し合い、今年度も周年行事を行ってきているので、今回も行うことに決め、規模は百周年程度の記念誌発行と記念式典と祝賀会を実施することとした。

職員間では幼稚園の歴史を学ぶことから始めた。今まで、記念誌を基に、明治三十七年の長岡栄子氏が始められた盛岡保育会と明治四十年以降のタッピング夫人の幼稚園の歴史を学んできたが、今回は、明治二十八年タッピング夫妻が宣教師として来日し、東京で築地幼稚園を開設、翌年東京幼稚園保母養成所（現・彰栄保育専門学校）を開設したが、その彰栄学園の創設と石原キク先生の取り組みをDVDで学んだ。特に、タッピ

ング先生はフレールベルの恩物中心の保育にドイツで学んだ音楽を採り入れたもので、それによって子どもの興味を引き出し、子どもの遊びから自発性や創造性を引き出す方法であったことを知ることができた。この事は、盛岡幼稚園の九十周年記念誌に掲載されている井上妙子氏や長岡輝子氏の寄稿文と重なるものであった。

今年の八月、突然、前触れもなく彰栄学園の先生四名が来園した。旅行の帰りで、途中下車してタッピング先生のピアノを視察したいとのことであった。

記念祝賀会では、タッピングのピアノとチェロの演奏をしていた。これは実行委員長の本松静毅氏の弟松本伸氏のお世話で実現した。チェロは六十二回生の三浦祥子氏、ピアノは六十八回生の平井良子氏で、タッピングのピアノと関連がある宮澤賢治の曲を中

心に演奏していただいた。また、祝賀会では百十年のあゆみをDVDに編集し上映した。

記念誌「つねによるこぶべし」は、百周年以降の記録として新園舎の建築、そして東日本大震災の記録、認定ことも園新制度への取り組み等に加え、六十五頁に編集した。七百部を発行し、卒園生にも贈呈することになっている。

その他の事業としては、運動会でのバルーンリリース、岩手県文化振興事業団事業

でブリーイ・ウーリー・カンパニーのコメディ・ジャグリングの演技鑑賞と体験、ふたば会が主催する「ふたば祭り」では卒園生を招待し、いつものお楽しみ会と作品展の他にお話しグループ「ブレーメン」による人形劇を鑑賞した。この人形劇は十二月の誕生会にも予定している。今後の予定は、卒

園生のクリスマス会、在園児のタイムカプセルである。

論語に、「温故知新」という言葉がある。古きをたずねて新しきを知るという意味であるが、今年度の百十周年事業は、タッピング先生の教育とそれを引き継いできた先人の思いを学ぶことができた。これを新しい認定ことも園の制度や来年から実施される教育・保育要領の実施に活かしていきたい。



祝賀会・タッピングのピアノとチェロの演奏

子どもの遊び・生活から

大盛況！トトロランド

Aクラス 竹岡 真美

毎年11月に行なわれるトトロランド。Aクラスがホールでお店を開き、トトロハウス参加親子と、いちご・C・Bクラスが買い物に来る日です。毎年、子ども達のアイディアで楽しいお店が並びます。

今年のAクラスもどんなお店を開こうかと皆で話し合うところから取り組みを始めました。お店が決まった翌日、登園するとさっそく品物作りを始める子達が出て、それを見て周りの子達も自然に自分達のお店の準備に取り掛かっていました。先生に言われなくても動き出し、集中して取り組める姿が嬉しく、頼もしく感じました。当日のお客さんはおよそ100人だと子ども達に伝えると、その数に驚きながらも張り切ってコツコツと準備を進めていました。それぞれのお店を見ると、普段の遊びや、去年Aクラスさんに楽しませてもらったことを生かしているところもあり、これまでの様々な経験がお店作りにつながっていました。



当日のホールは、たくさんのお客さんで大賑わい。その中で、小さいお客さんに優しく話しかけたり、相手の年齢に合わせて対応したりする姿があちこちで見られました。閉店後、笑顔で「たのしかったですー」と言っていたその表情が、充実感や満足感を表していたと思います。また一つ、みんなで大きな行事を経験し、力をつけたAクラスです。



どれがいいですか？

一ひつこの経験から

Bクラス 舟越 恵子

あつという間に十二月になり、二学期も終わりに近づきました。運動会、百十周年記念式典、遠足、トトロランド等たくさんの方を経験した子ども達です。

昨年はお客さんとして楽しんだトトロランドでは、初めてのお店屋さんを経験しました。電車やペダンタン等、一つひとつ丁寧に作り、当日は、開店前から「いらっしゃいませ〜！」の元気な声が廊下いっぱいに響き渡りました。トトロランド後に始まったごっこ遊びでもクッキー屋さん、温泉屋さん等自分で品物を作ったり、お買い物券を作ってやり取りを楽しんでいました。

また、Aクラスの遊びの姿を真似し、ダンスを覚えたり、長縄では様々な跳び方に挑戦したり、相撲遊びでは、勝敗に関係なく立ち向かったり、ドッジボールに参加したりと活発な遊びを楽しむ一方で、まだまだ気持ちのすれ違いもあります。少しずつ自分達で話し合い、解決できるようにもなってきました。

十二月一日には、「冬の交通安全 故防止県民運動」のイベントへの初参加！寒さの中でも立派に交通安全を呼びかけることができました。これからも様々な経験が喜びや自信となり、子ども達が成長していくことを願っています。

なんでも真似っこ

C2クラス 向井 里奈

2学期は運動会に始まり、焼き芋会やトトロランドなど、たくさんの方の行事を経験し、その中で少しずつ大きく成長してきた子供たち。特に記念式典では、たくさんのお客さまの前で歌って踊ることに、ドキドキする緊張感やワクワクする楽しさを感じつつ、小さな体でいろんな気持ちの変化を感じたことでしょう。でも、友達と手をつなぐことでパワーをもらい、お客さまやお家の人に見てもらって嬉しさをパワーに変えて、乗り越えることができたと思います。また、友達と一緒に楽しさや異年齢の優しさに触れる機会が増え、真似っこ好きなCクラスは、新しい刺激にアンテナがピンと張り、さっそく『真似っこ、真似っこ』。トトロランドでお買い物すれば、

すぐに「いらっしやいませー」と自分達もと、大きな声が響き渡り、また A クラスが踊り出せば、C クラスもステージにあがって自分をアピールするかのようには踊り始めます。

「なんでも『真似っこ真似っこ』」そこから遊びが広がり、やってみたいの気持ちへとつながっていくように感じています。その気持ちを大切に、これからも楽しい雰囲気の中で、子供たちの成長をそばで見守っていききたいと思います。

つぼみクラスの子ども達

つぼみクラス 南幅 優理

四月。新しい環境に戸惑い、泣きながら登園していた子ども達。初めてお家の方と離れる子や、進級して不安を感じている子もいましたが、慣れてくると徐々に笑顔も増え、自分の思いや主張をたくさん出しながら園生活を楽しめるようになってきました。

最近では、友達と手を繋いだり、笑いあったり、一緒のおもちやで遊んだり…。友達とかかわろうとする姿が増えてきました。また、ズボン履きやコップを袋にしまうなど、自分の身の回りのことに興

味をもち、やってみようという頑張っている姿もみられます。

今までできなかったことができているようになったり、「いれて」「貸して」など簡単な言葉のやりとりができるようになったり。日々、保育をしていると、本当に子ども達の成長の速さ、吸収力にはいつも驚かされます。子どもたちの成長と一緒に喜んだり、間近で感じたりできることが、この仕事をしていたてよかったなあと感じる瞬間でもあります。

元氣いっぱい、笑顔が素敵なつぼみクラスの子ども達。これからも、楽しく園生活を送れるように見守っていききたいと思います。



なかよしになったの…

子ども達の生活 (行事) から



★トトロランド (11月8日)

年長児が友だちと協力してお店やさんを開店！売り手も買い手もワクワクする日です。今年も子ども達の発想に驚かされました。

★小学校体験学習 (11月15日) 年長

仁王小学校へ出かけ一年生の授業を見学したり一緒にゲームをしました。小学校への期待が益々、膨らんだようです。卒業生もすっかり小学生の顔をしていました。

★収穫感謝祭 (11月16日)

秋の恵みの野菜や果物をお捧げし礼拝を行いました。翌日、持ち寄った野菜でおみそ汁にして皆で頂きました。

★えいごであそぼ！ (11月21日)

特別レッスン (クリスマススイベント) をホールで行いました。トナカイ探しやプレゼント渡し？のゲームに大興奮。ジャスティン先生手作りのクリスマスカードやサンタ姿がとても素敵でした。

★クリスマス会 (12月15日)

年長児29名が聖誕劇をします。素敵なおクリスマス会になりますように！

編集後記

園内にはクリスマスの装飾やアドベント (待降節) が飾られ、一年で一番忙しく一番楽しいクリスマス会の時期を迎えました。子どもたちの会話の中にも「サンタさん」「クリスマスプレゼント」というワードが聞かれるようになり心待ちにしている様子が見られます。

百十周年記念式典・祝賀会を無事に終え、たくさんの方々を支えられていることを改めて感じる事ができました。久しぶりに会う懐かしい顔ぶれに、あの時がよみがえり思い出話が尽きませんでした。築き上げてきた百十年の歴史は盛岡幼稚園にとって宝物であり大事な財産です。そしてまた、新たな歴史を目の前にいる子どもたちと一緒に一ページ一ページ作り上げていきたいと思えます。これからもよろしくお願いたします。

学校法人 内丸学園
 幼保連携型認定こども園
 盛岡幼稚園
 〒020-0001
 盛岡市中央通一六四七
 TEL 六二二-二三〇一
 理事長 坂本 洋